

第 31 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：平成 28 年 6 月 17 日(金) 19:00～21:00

場所：佐土原総合文化センター 研修室

参加者：

□市民：23 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授(九州工業大学)

高田准教授(神戸高専)

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

(県)河川課、自然環境課、宮崎土木事務所、中部農林振興局、中部港湾事務所

(市)土木課、佐土原総合支所、地域振興部住吉地域センター

実施内容：

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介および新任の行政職員の紹介を行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により議事が進められた。

まず、事務局より「宮崎海岸の侵食対策の概要」、「第 30 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」、「宮崎海岸の現状」の説明及び「工事の実施状況、予定他」に関する報告をした。

続いて、事務局より「動物園東の開口部について」を説明した後、これを踏まえて談義した。

※会議の開催前 15 分程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

～「宮崎海岸の侵食対策の概要」、「第 30 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」、「宮崎海岸の現状」、「工事の実施状況、予定他」について～

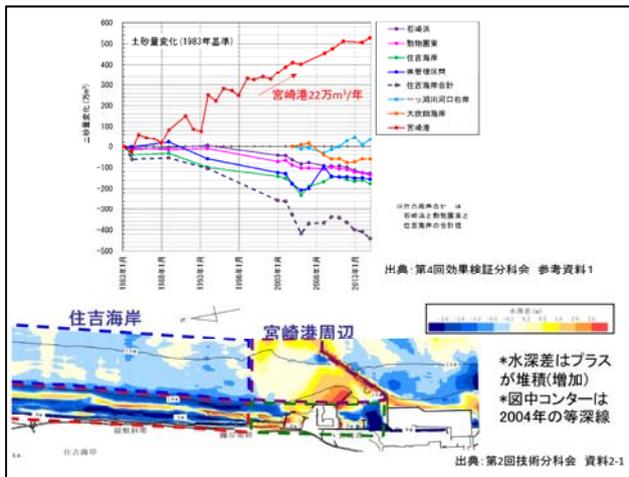
事務局より、「宮崎海岸の侵食対策の概要」、「第 30 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」、「宮崎海岸の現状」、「工事の実施状況、予定他」について説明した。「宮崎海岸の現状」については、ドローンにより空中より撮影した動画を投影した。

[コーディネータ]

- ・第30回市民談義所のアンケート欄に、「港に22万 m³土砂が溜まっているという話を聞いたが、それをどのように処理されているのか、ほんとうにそれぐらい溜まっているのか」という質問があり、これを宿題として受け取っていたかと思う。これに関する説明を加えてほしい。

[事務局]

- ・宮崎海岸の土砂の減少量と宮崎港に溜まっている土砂量を示したグラフである。1年間に22万 m³も溜まっているのかという御意見だったが、経年的に見ると、でこぼこはしているが、継続的に1年あたり22万 m³溜まっているような状況である。
- ・宮崎港の堆積土砂のうち、一部は航路の浚渫等を行い、宮崎海岸に海中養浜しており、侵食を抑制するための関係機関の連携も進めているところである。



年度	項目	数量	単位	備考
2013年度	宮崎港	220,000	m ³	宮崎港22万m ³ /年
2012年度	宮崎港	220,000	m ³	
2011年度	宮崎港	220,000	m ³	
2010年度	宮崎港	220,000	m ³	
2009年度	宮崎港	220,000	m ³	
2008年度	宮崎港	220,000	m ³	
2007年度	宮崎港	220,000	m ³	
2006年度	宮崎港	220,000	m ³	
2005年度	宮崎港	220,000	m ³	
2004年度	宮崎港	220,000	m ³	
2003年度	宮崎港	220,000	m ³	
2002年度	宮崎港	220,000	m ³	
2001年度	宮崎港	220,000	m ³	
2000年度	宮崎港	220,000	m ³	
1999年度	宮崎港	220,000	m ³	
1998年度	宮崎港	220,000	m ³	
1997年度	宮崎港	220,000	m ³	
1996年度	宮崎港	220,000	m ³	
1995年度	宮崎港	220,000	m ³	
1994年度	宮崎港	220,000	m ³	
1993年度	宮崎港	220,000	m ³	
1992年度	宮崎港	220,000	m ³	
1991年度	宮崎港	220,000	m ³	
1990年度	宮崎港	220,000	m ³	
1989年度	宮崎港	220,000	m ³	
1988年度	宮崎港	220,000	m ³	
1987年度	宮崎港	220,000	m ³	
1986年度	宮崎港	220,000	m ³	
1985年度	宮崎港	220,000	m ³	
1984年度	宮崎港	220,000	m ³	
1983年度	宮崎港	220,000	m ³	

※上記資料をスクリーンに映して説明

[参加者]

- ・パンフレット「宮崎海岸の侵食対策～成り立ちと経緯～」の表紙は、平成24年10月の写真だが、これと現在を見比べたときにどのように変化しているのかを説明してほしい。平成24年から5年が経過しているので、それを比較しての事務局新メンバーの感想を聞きたい。
- ・行政は交代(人事異動)後、「後は知らんよ」という状態だが、海岸に砂丘の丘ができるまで責任を持ってもらいたい。
- ・パンフレット「宮崎海岸の侵食対策～成り立ちと経緯～」のp.7～8に、宮崎海岸の地形変化の実態と要因が記載されており、毎年20～30万 m³の海浜土砂量が減少していると示されている。一方、市民談義所資料 p.11には、これまで99万 m³養浜したとあった。毎年20～30万 m³ということは、5年間で100万 m³～150万 m³海浜土砂量は減少する。これに対して、約100万 m³養浜しているならば、計算上は収支がトントンでないといけませんが、実際には浜崖の

後退が見られるなど侵食は進んでいる。この理由を教えてください。

[事務局]

- ・台風の影響等も受けて場所によって侵食したり堆積したりしている状況だと考えている。測量成果から見ても、1983年からの変化を示した資料ではあるが、一ツ瀬川河口右岸で土砂が増えたり、大炊田海岸については経年的に土砂が減っていたりという傾向が見て取れる。侵食傾向は進んでいるという事実だけは把握しているというところである。
- ・港湾の浚渫土砂は、優先的に宮崎海岸に補給している状況である。養浜量は、事業着手時からすると侵食量と同じような数量であるが、過去からすればずいぶん減少していて、今、埋設護岸を設置しながら浜崖の後退を防いでいるところである。

[参加者]

- ・先ほどの宮崎港の浚渫量の説明で、これまで約 10 万 m³ 海中養浜をしたと説明があったが、第 28 回市民談義所資料【別紙】p. 8 によると、海中養浜は 31.9 万 m³ となっている。この数字について丁寧に教えてください。

2. 養浜(4/4) - 8 -

評価対象	養浜(平成25年度)
効率性	・養浜土砂の調達は、漁港・道路・河川・港湾事業と連携して実施した。
計画全体に対する進捗	・平成25年度まで実施(平成25年度実施)/計画全体数量 82.7万m ³ *(16.9万m ³)/280万m ³ *うち、31.9万m ³ は住吉海岸への海中養浜、3.8万m ³ は住吉海岸離岸堤裏への投入
課題	・浜幅の減少は深刻であるとともに浜崖の後退や埋設護岸の被災等、海浜全体の土砂量が経年的に減少している影響が顕在化している。 ・宮崎海岸への北からの土砂の供給を増やす流砂系における総合土砂管理の取り組みについては、具体的な成果を出せる段階に到達していない。 ・養浜は年間侵食量20万m ³ に対する対応としては十分ではなく、突堤も延長75mで先端水深はT.P.-2~-3m程度であり、沿岸漂砂を捕捉するに十分な水深までの施工となっていない。また、養浜のみの実施では現状維持も困難となっている。
今後の対策の方向性	・投入土砂量が全体養浜事業量280万m ³ に対して絶対的に不足しているため、養浜量を増やして継続していくとともに、南への流出土砂を減らす突堤を早急に整備する。 ・動物園東における侵食の進行を抑制し、砂丘の後退を防止することが必要である。 ・養浜材の確保については様々な機関との連携が図れているが、必要とされる養浜量が多いことからさらなる連携により効率的に事業を進めていく必要がある。今後は、中長期的な課題となっている宮崎海岸への北からの土砂の供給を増やすために、流砂系における総合土砂管理の取り組みを関係機関と連携し、一刻も早く具体的に推進していく必要がある。 ・養浜の実施においては、沿岸漂砂の上手となる北側からの効率的な投入、台風来襲時には北側への沿岸漂砂が卓越する現象、侵食が進む脆弱箇所(大炊田海岸、石崎浜、動物園東)を見据えた効果的な投入が必要と考えられる。 以上のことから、対策の内容(投入場所の精査、投入量の増加)の修正・工夫を行い、事業を継続していくことが妥当であると考えられる。
評価	対策は順調に進んでおり工法を継続
	対策は概ね順調に進んでおり工法を継続
	対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留

※第 28 回効果検証分科会資料【別紙】 p. 8

[事務局]

- ・2008(平成 20)年～2013(平成 25)年の間に、港湾から持ってきた土砂をレストハウス前(一ツ葉パーキングエリア前)に養浜として入れた量を合計したものである。

[参加者]

- ・過去に他の参加者も発言していたが、養浜の投入位置がレストハウス前では効果がないので、もっと北側に養浜してほしいと再三申し入れているが改善されていない。

[コーディネータ]

- ・次回の市民談義所で事業主体から回答してもらいたいようにしたい。

～「動物園東の開口部について」～

事務局より、「動物園東の開口部について」を説明した後、これを踏まえて談義した。

[コーディネータ]

- ・第26回市民談義所で、市民から、なぜ動物園東のボックスカルバートを抜けたところだけサンドバックではなく袋詰め石をおいてあるのかという質問や、そこにコンクリートで階段を造るという話を聞いたが本当か、という質問があった。
- ・背景には行き違いがあって、事業主体のほうでは地元と話をする中で、あの場所で浜にアクセスができるような構造にしてほしいという声を聞いていたこともあって、何かアクセスのための設備が必要じゃないかと考えていたということである。一方で、市民談義所で浜へのアクセスについて議論していたわけではないので、あの場所に浜に下りていくための何かが必要かどうかというところをもう一度しっかり市民談義所の中で議論したいということである。
- ・サンドバックが砂に埋まっていれば、そのまま砂浜に下りていけるが、砂が流されてサンドバックが露出したときに段差ができる。このような状況のときでも砂浜に降りられる必要があるのか、もし降りたいのであれば、どういう構造で砂浜にアクセスできるようにしたらいいのかを談義したいという説明だった。

[参加者]

- ・毎回の市民談義所で、海岸侵食対策としての費用がいくらかという話がまったくない。どれだけの金をつぎ込まれても侵食が進んでいるのではないか。直轄事業が始まってからも侵食がだいぶ進んでいる。
- ・宮崎海岸は白砂青松100選のうちのひとつであり、リゾート法適用第1号という土地柄であるのに、海岸の復興に当たっては美しい海浜をつくらうということが表に出ていない。

- ・抜本的に方法を変えて、金がかからないで砂がつくような方法で早めにやっ
ていただきたいと思っている。
- ・この4年間、年度ごと事業費がいくらかかったかというのを教えてほしい。

[事務局]

- ・手元に資料がないが、総事業費としては、230億円で考えているところであ
る。年度によってでこぼこが出ているが、概ね、年間7億円程度執行してい
る。

[参加者]

- ・海浜の傾斜が強い(急勾配)ときは、波が強くなると前浜をすいていく。だか
ら壊れる(侵食が進む)。海浜の勾配は10°以内でないと侵食が発生する。勾
配が強いほど問題があると考ええる。

[事務局]

- ・勾配が急になると侵食されやすいというのは御指摘のとおりである。しかし、
砂がどんどん減っている段階では強制的に砂浜の勾配をコントロールするこ
とは非常に難しいと考えている。
- ・養浜で土砂量を増やすことによって、砂浜の勾配も適切に保ちながら砂浜を
回復していくことができると考えている。さらに、将来的には川から自然に
土砂が流れてくることを目指しているのがこの侵食対策である。

[参加者]

- ・保安林部局と海岸部局の事業の境界が明確でない。

[参加者]

- ・海の濁りが多い。3月の田植えから8月の稲刈りまで、約5ヶ月は濁りが出
ていて魚も少なくなり、シジミもいなくなっている。漁業組合の会員からは
「どうして一ツ瀬川の土砂を(養浜として)持って行くのか、それをするから
濁るんだ」と注文が付いている。濁りのないような砂浜づくりをお願いした
いと思っている。

[事務局]

- ・現在の養浜は、海中養浜は宮崎港から浚渫した土砂を持ってきている。陸上
部の養浜は、大淀川や他のところから出た砂を適宜用いながら施工している。
- ・濁りについては、近年分析をしていないが、漁協からは、養浜の濁りで困っ
ているということは特に言われていない。
- ・工事中はできるだけ濁りが出ないように注意しているが、今後とも努力して
いきたい。

[コーディネータ]

- ・養浜のときの濁りに加え、一ツ瀬川そのものの濁水問題がずっとあったかと思うので、苦情というのがそのどちらの話かというのを確認しておきたい。養浜に際しては、これまで漁協ともいろいろ話をしているようなので、濁りというのは養浜の話ではないのではないかと聞こえた。

[コーディネータ]

- ・具体的な漁業者の意見は、ぜひ事務所に情報提供をお願いしたい。現場の状況を把握して対応すると思う。

[参加者]

- ・地元に住んでいて、よく海に行くが、砂浜の様子が大きく変わる。ここ数年、台風らしい台風は1回も来ていないにも関わらずあれだけの砂が流されている。海が荒れていなくても、大潮だけで、砂は完全に持っていかれる。台風が来たら、ひとたまりもないと思う。
- ・動物園東の北側の浜崖はだいぶ後退したが、今後この箇所はどうするつもりか教えてほしい。

[事務局]

- ・どれだけ大きな台風が来るかというのは、我々も予測できないが、なるべく台風の影響を受けない、浜崖を守るための対策を今実施しているところである。当然養浜も行っていくし、再度災害防止という形で鋭意対策を進めている。動物園東の南端は、だいぶ浜崖がえぐられた状況であるが、これに沿うようにサンドバックをおき、その前にさらにサンドバックを置く計画で対策を進めている。
- ・今後も災害が起こる可能性はあるので、我々としても災害が拡大しないように、備蓄材等いろいろなものを用意しているところである。

[コーディネータ]

- ・動物園東の開口部については、アプローチするかどうかという話も議論しなくては行けないが、防護面で、そもそもあそこを強くしなきゃいけないということについて、事業主体がどう考えているか確認したい。

[事務局]

- ・昨年度、動物園東南端の県護岸との取り付け部および里道前については調整が必要だということで、本施工のサンドバックではなく、袋詰め玉石を置いて対応していたところである。昨年度の台風で、南端の袋詰め玉石の部分が被害を受けたので、そこにはサンドバックを置いて対応し、再度災害防止に

努めているところである。残る課題は、里道からのアクセス部にまだ袋詰め玉石が残っていることである。

- ・事業主体としては、今のままでは大きな波が来たときに弱部となり得るので、早期に何とかしないとイケないと考えている。サンドバックを一連で置く方法で対策を進めたいところであるが、対応の決定には談義所の議論を経ることを約束しているため、参加者がどのような形のものと考えているか、談義したいと考えている。

[参加者]

- ・サンドバックの低い高さのものを並べるといいのではないか。規定のものだけでやると高いからアプローチできなくなるが、低く改良したものを考えれば簡単なことではないか。

[コーディネータ]

- ・ひとつ確認しておきたいのは、皆さんはここにアプローチができるほうがいいという御意見か。

[参加者]

- ・以前の事務局の説明では、住民の要望によってコンクリートの階段を造ろうと思っていたが、住民の要望がどこから出たかも分からないし、必要ないというのであれば、(コンクリート護岸の計画はなくして)袋詰め玉石も撤去するということだった。

[コーディネータ]

- ・過去の、住民からのここにアプローチが必要だという意見はどこから出たものだったのか。

[事務局]

- ・談義の手法として良かったかどうかは分からないが、地元を回って意見を収集したことがある。このときに、浜に下りる手段は必要ということで御意見は伺っている。談義所の中でも、「何かできないのか」という御意見は出ていた。

[コーディネータ]

- ・サンドバックをふたつ重ねてあるところが露出すると、非常に大きな段差があるので、昇り降りが困難になる。ただし、こういう状況のときは波が荒れている場合が多いが、こういった状況においても昇り降りしなくてはならないのかどうかを含めて御意見をいただきたい。
- ・サンドバックが露出して段差が出来ている状況でも、横に移動すれば、サン

ドバックに砂が被っている場所があるので、そこで昇り降りをするだけでいいという考え方もあると思う。

- ・サンドバックが露出しても、また砂をかぶせれば昇り降りはできるようになる。ただし、緊急的に砂をかぶせることができるかという問題はあるが、波が落ちてきた段階ではそういったことも可能であると考えられる。
- ・以上より、「昇り降りができること」と「階段の必要性」は直結していないというふうに考えてもらったほうが良いかと思う。

[参加者]

- ・昭和 43 年から佐土原に住んでいる。かつては、大炊田海岸は、松林を抜けると海が見えないくらいの高さの土手があった。それを越えて先に行くと、ずっと砂浜があった。地域の方が運動会をできるくらいの広さの砂浜が広がっていた。
- ・年間何十万 m³という砂が流出しているという説明だったが、過去の状況と比較すると、多分、桁違いの砂が海岸から流れていっているのではないかという印象である。

[コーディネータ]

- ・そういった広い砂浜のある海岸を長期的に目指す中で、一時的にサンドバックが露出した時に砂浜に降りる必要があるのかどうかということについて、事業主体として現時点で考えられる案がいくつかあれば説明してほしい。

[事務局]

- ・先ほど参加者から台風時の安全性についての懸念が指摘されたが、安全性の確保の面からもある程度サンドバックが露出した段階で砂を投入する必要があることは学識者からも指摘を受けている。
- ・背後の浜崖の被災を誘発しかねない袋詰め玉石については、撤去してサンドバックに置き換えたいと考えている。昨年度まで、サンドバックの下に敷いた洗掘防止工が露出して不陸を生じ、サンドバックが沈下してきた状況があったので、サンドバックの 1 段目が見えたときに砂を投入するような体制を取りたい。台風中に露出し、すぐに対応できないケースもあるが、やれるだけはやっていかないといけないと考えている。
- ・高波浪が来てサンドバックが露出し、段差ができる状況が続いた場合には、砂浜に下りたいという人はなかなかいないと考えているし、危険なので防護柵を張ることになる。
- ・コンクリートで階段護岸を作ると周りにどのような影響が出るかわからないので、なるべく一連のサンドバックで対策をしたいと考えている。
- ・小さなサンドバックを置くことについては、サンドバックは波の力に耐えるためにある程度の重さが必要だということでこの形が決まっている。基本的

には現在の形状のサンドバックで対策を進めながら、小さいものができるかは検討したいと思う。

[参加者]

- ・現在置かれている袋詰め玉石は、既に下の方は袋が破れて石が露出している。波が高くなって袋詰め玉石部分に波が来たとき、波の力が増幅されて南と北のサンドバックに早々に影響が出てくると考えられる。この区間をサンドバックで対応してもらえるのであればそれに越したことはない。
- ・住吉海岸のうち、動物園東の約 1km 区間は唯一コンクリートの構造物がない海岸である。できるだけ残してほしいという強い気持ちがある。

[コーディネータ]

- ・ここに階段を作ったりするのではなく、サンドバックを入れて砂をかぶせ、砂浜がある状態の時にアクセスするという方針については、反対意見はないか。事業主体と市民の共通の認識が取れていると考えて良いか。
- ・サンドバックの大きさを変えられるかについてはこれから検討していくということが良いか。

[参加者]

(反対の声なし)

[コーディネータ]

- ・以前、地元からアクセスの階段の要望が出ていたという話があった。要望された方へ同様の説明をする必要があると思うので、地元への説明を事業主体にお願いしたい。

[参加者]

- ・何回も発言しているが、港に年間 22 万 m³ の砂が溜まるというのはおかしいと考えている。3 万 m³ の砂の量はダンプトラックで約 6,000 台分と言われていることを考えると、22 万 m³ の砂が港に毎年溜まるといったら、すごい量である。
- ・砂は、水深 12m より浅いところを動くと言われている。手前でしか砂が動かなくて、本当に年間 22 万 m³ の土砂が港湾に溜まるほど砂が動いているのであれば、75m の突堤を造ったときに、それだけの砂が突堤周辺に溜まって良いはずである。現在はほとんど砂が付いていない。

[事務局]

- ・港湾に年平均 22 万 m³ の土砂が堆積しているというのは、測量成果から数値として出てきた事実である。

- ・突堤周辺への土砂の堆積については、冬場の波が落ち着いたときには事業主体の方でも確認している。昨年の台風は、これまでと少し傾向が違った可能性があり、これまでは北から南への土砂の動きが卓越していたが、昨年度は南から北への波浪が多く出ていたので突堤から北側へ土砂が移動している状況である。
- ・今後もモニタリングを継続しながら、砂が付くようにしていきたいと考えている。

[参加者]

- ・海岸の土砂は沖には逃げていないということか。

[コーディネータ]

- ・技術分科会の基本的な認識として、砂は水深 10m のところまで南北に動いていて、沖に行く量は多くないのではないかと聞いています。

[参加者] (技術分科会長)

- ・波向きに応じて土砂は移動するので、台風がどの経路を通るかということがこの海岸では微妙な結果を生んでいる。
- ・突堤のところに砂が付いていないのは、基本的に突堤が短すぎるのが原因である。突堤の効果を出すためには、補助突堤の建設も重要ではあるが、南側の突堤を伸ばしていく努力をしないとなかなかいい結果に結びつくことはないのではないかと、技術分科会でも話しているところである。

[参加者]

- ・一番南側の突堤をなぜ延伸しないのかということがいつも議題に上る。突堤の工事の当初の話では、突堤を 300m 伸ばすことによって、沖合で流れる砂を止めないと効果がなく、補助突堤に関しては、必要があれば設置して必要がなければ設置しないことも考え得るという説明だった。今は、補助突堤①と②もとりあえず伸ばして結果を確認してみる、今できる範囲内のことで進めたい、という説明を聞くが、これは当初の計画からだいぶゆがんでいる。
- ・私たちは、突堤を 300m 伸ばして沖合の砂を止めることが前提で砂浜を 50m 回復するという説明を聞いていたのに、今はやみくもに突堤を追加して景観を破壊して、「砂が付くであろう」という想定だけで進んでいるように思う。このことについて納得のいく説明が欲しい。

[事務局]

- ・資料 p.10 に示しているとおおり、大きくⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期と分けて事業を進めている。養浜の施工はずっと継続していく。突堤は、伸ばすとかなりのイン

パクトがあるという意見もあって、段階的に伸ばしていく必要があると考えている。

- ・ 施工順序については、地形変化予測シミュレーションを実施して、技術分科会でも議論している。突堤を伸ばしながら、補助突堤も伸ばすという順序が、砂の付き方が効果的であり、周囲に与えるインパクトも少ないという検討結果を踏まえて、段階的に施工して効果を検証していこうという計画である。
- ・ 今回、突堤 75m、補助突堤①42m、補助突堤②50m をつくって、砂の付き方を検証していく。効果が確認され、周囲に与える影響が少ないという結果が出てくれば、利用者との調整に配慮しながら、突堤の先の延長を伸ばしていくという計画である。
- ・ 300m の突堤の計画に対して、一気に 300m つくるということは、かなり周囲に与えるインパクトが大きいのので、そういったことは避けていくというのが宮崎海岸の「効果検証をしながら事業を進めていく」やり方である。

[参加者]

- ・ 当初、補助突堤はあくまで補助であると聞いていた。本突堤(南端の突堤)ありきの補助突堤だと思う。本突堤は、先ほど技術分科会長からも少しでも伸ばさないと、効果も分からないという話があった。だが、補助突堤の出来上がりの見通しばかりが進んでいき、本突堤の延伸の見通しが一切出てこないというのはおかしいのではないかと思う。
- ・ 補助突堤に関してのみ、効果検証を飛ばして設置を先行しているのはおかしいのではないかと思う。
- ・ 本突堤を次に伸ばすのはいつなのか。

[事務局]

- ・ 資料 p. 10 に示しているとおおり、I 期の施工を平成 29 年までとしている。この段階で砂が付いていることが確認できれば、効果が確認できたということになって次のステップ(突堤の延伸)に移行する。
- ・ 効果検証に当たっては、さらに、関係者のいろいろな意見を聞かないといけない。これが宮崎海岸トライアングルだと捉えている。利用者に配慮しながら、平成 29 年を目標に I 期の施工を終え、次のステップに進みたいという考えである。

[参加者]

- ・ 突堤の長さ 300m の根拠を再度確認したい。

[事務局]

- ・ 砂の動きを止めるには、基本的には 700m の突堤が必要だという検討結果である。しかし、今後の維持管理や周囲への影響度合いを考慮して、突堤 200m

まで突堤を延伸すると全体の移動する土砂のうちの 80%を止められるのではないかという結論を得ている。しかし、砂浜が回復してくると、突堤付近の水深が浅くなり、この土砂も捉えなければならないということも含めて、必要な長さを 300m としている。

- ・突堤 300m を整備しても、港に向かう土砂すべてを捉えられるわけではない。維持管理の段階においても、やはり養浜は続けていかないと結果である。
- ・突堤 300m の延伸ではなく、浜幅 50m の確保を目指している事業なので、効果検証を進めながら、改めて突堤の必要長についても検討していく。

[参加者]

- ・前回から、突堤延伸の阻害になっているのは漁業者の反対だという話があったと思う。この阻害因子を取ることを、どのように進めるのかを明確にしてほしい。

[コーディネータ]

- ・漁業者が突堤の延伸を止めているわけではなく、漁業者にとってもいいような事業をしていく必要があるということである。
- ・漁業者がいないところで漁業者のことを話すのはよくないことであるし、漁業者とも市民談義所やそのほかの場で話し合いを進めていこうとしているところである。前回の市民談義所からこの部分の話が進んでいないので、もどかしい気持ちにさせてしまっているのは市民連携コーディネータとして申し訳ないと思っている。

[コーディネータ]

- ・前々回より、漁業関係者との調整がすごく難しいという話はしているが、「漁業者の反対がネックになっている」という言い方は少し違うと考えている。漁業者も住民であるので、彼らにもほかの市民と同様に納得が必要である。
- ・漁業者や住民、いろいろな人と話し合うのが市民談義所であり、この事業の進め方なので、誰かを悪者にするとか、誰かをターゲットにするのではなく、進め方を慎重に考えながら進めていければと考えている。
- ・早急に結果を求めるような動きがしにくいことも含めて、見ていただければと思う。
- ・熊本の地震等で延期になってしまっているが、漁業者のところに行き、対話することも今考えているところである。

[コーディネータ]

- ・海岸事業についての議論だが、宮崎という地域の問題なので、地域の人皆が幸せになれるような事業にしていけない。コーディネータに対して、「もっと早く動け」という気持ちがあればどんどん言ってもらえたら、

私たちからもできることをやっていきたいと思う。

[参加者]

- ・具体的な数字を出して説明してもらえると、素人でも分かる。次回は、予測計算上、何年待てばどのくらいの高さの砂浜が付く、というような結果を示してほしい。

[コーディネータ]

- ・突堤の効果や施工順序についても、どういった背景・どういった根拠で計画を決めているのかということや、談義所で分かりやすく説明してみんなで共有していくことが、今後もっと強化していかなければならない課題だということや、挙げた意見かと思う。

[コーディネータ]

- ・技術分科会長からも南端の突堤を伸ばすことが重要であるという発言があり、また、参加者からはなぜ補助突堤を先に施工したのかという質問もあった。このことを、きちんと分かりやすい形で今の施工順序が本当に適切なのかどうかを談義所で共有して行くことは重要な課題だと感じた。
- ・動物園東のサンドパック開口部については、サンドパックで閉じることによって背後地の安全性を高めるということの方向性を共有した。また、土砂が流出してサンドパックが露出した時に砂浜におりやすくなるように、サンドパックの大きさを変えられないかということについて検討してもらうこと、その対応が難しい場合はサンドパックが露出したときにはできるだけ早く砂を被せて段差をなくすことで海辺への近づきやすさを担保するということを、共有した。

以 上